

策定年月	令和6年4月
見直し年月	令和 年 月

麦国産化プラン

産地名：佐賀県伊万里市

作成主体：株式会社フェルマ木須

1. 麦生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

<麦>

○現状

伊万里市で多く栽培されている大麦を主体とした栽培体系だが、作期の異なる小麦を取り入れ、面積拡大につなげる。また実需者が求める高収量・高品質な小麦の生産を行うことで、国産化を増進する。

○課題

大麦から小麦への作付転換による収穫時期が重ならない品種への転換、収量の高位安定化の為に有機物を活用した地力増進に取り組む必要がある。

○取組方針

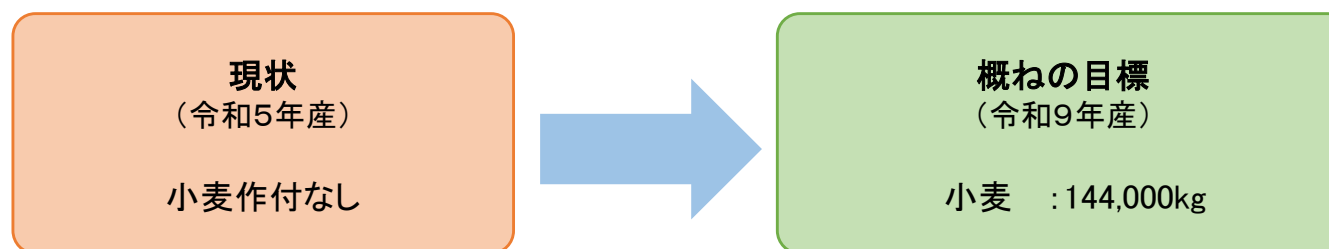
令和7年産から実需者とマッチングした、安定的収量が見込める小麦への品種転換を推進する。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

2. 産地と実需者との連携方針

<麦>
非公表と播種前契約を結び、実需者の需要動向を把握し意見交換を行い、需要に応じた生産計画を策定する。



主要な実需者

○小麦: 非公表

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

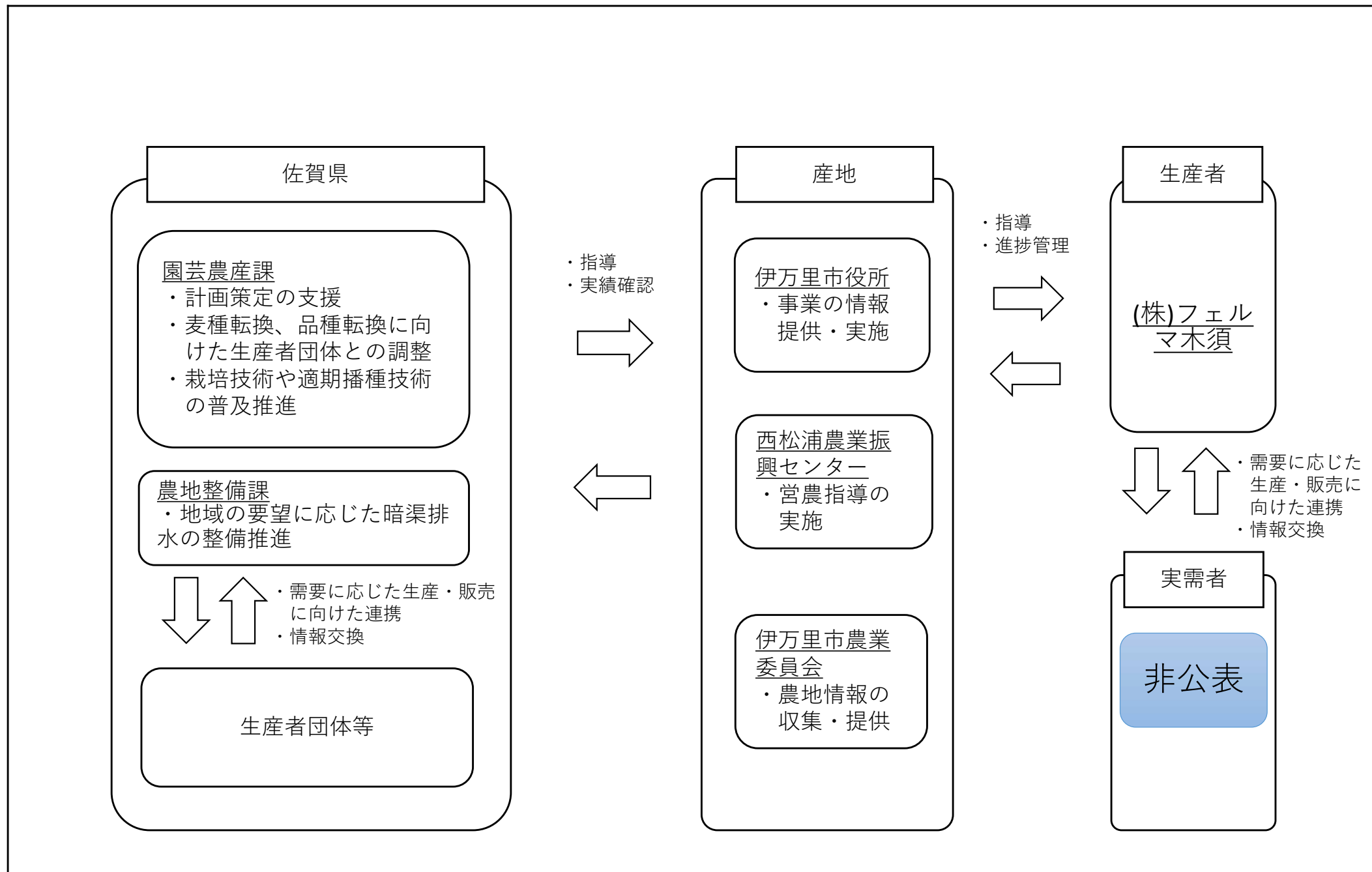
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

3. 麦の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。